

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.49 February 2016

第4回研究会を開催 11月28日(土)

第4回研究会は、「中小企業における継続的事業展開」をテーマに講演会を開催いたしました。当日は30名の会員・機構研究員が参加しました。

今回も本振興会企画担当の株式会社アスク 武内博資氏が司会を務め、大変活気ある研究会となりました。

また、本振興会会員同士の交流の深化を目的に、昨年と同様、会員企業のPRの機会を設けました。2社の企業PRは、本振興会会員にとりましても、会員企業を知る絶好の機会となりました。

1 講演「地震に備える基礎知識 ～被害軽減・事業継続・事業継承～」

関西大学社会安全学部 准教授 林 能成 氏

社会安全学部 林能成准教授より「地震に備える基礎知識」と題してご講演をいただきました。

林先生は、社会安全学部の意義のご紹介に関連して、①安心・安全を実現するには理系知識だけでは不足で、心理や社会制度を踏まえた理解が必要であり、文理融合が求められる、②「100年に一度」の災害に備えるためには、より身近な事故との共通課題を見出して「日常」から取り組まなければならない、と講演の趣旨を述べられました。



被害軽減の具体的な事例として、①「関東大震災」と「阪神淡路大震災」を取り挙げて、人口密集という前者の特殊性から火災対策が強調され過ぎたため、木造家屋の耐震化や避難経路の整備などの日常対策が疎かになったこと、②「東日本大震災」では、「釜石の奇跡」と「大川小の悲劇」の対比で、日頃から危機意識を持って避難の準備をしておき、予断なしに速やかに行動するべき、と紹介されました。

最後に、「2007年中越沖地震」の事例から、地震防災は自身や身近な人を守るだけではなく、家や仕事などの生活基盤を守って速やかな生活再建につなぐことの重要性を強調され、研究会の企業参加者も事業継続・事業継承の責任について思いを新たにすることが出来ました。

2 「大阪府の海外展開支援施策について」

大阪府商工労働部成長産業振興室 参事 仲畑 尚敏 氏
主事 大村 榛菜 氏

大阪商工労働部参事 仲畑尚敏氏より、府内の中小企業の海外事業展開を支援するための諸施策について、具体的事例に基づきながら次のような概要をご紹介頂きました。大阪府では中小企業が海外展開時に直面する2課題「販売先の確保」と「信頼できるパートナー探し」に重点を置いて、支援策を提案しています。具体的には、海外展開の事前調査に必要な国際情報をセミナーで発信していること、海外企業とのビジネス契約交渉時でのトラブルには相談窓口を設置していること、海外パートナー・販売先探しには支援拠点を設けて相談にのる体制が構築されて



いること(世界9地域)、事業拡大・事業再編が必要な場合には、経済ミッション団の派遣、各種商談会や海外展示会の企画があること等、スムーズな海外事業展開を目指したサポート施策となっています。更に、海外展開に挑戦する中小企業には、どんな子細な問題にでも相談に応じるとのことでした。最後に、大村榛菜氏より大阪府のライフサイエンス分野での取り組み、ビジネスサポート拠点や海外見本市など、最新企画案についてご紹介がありました。

最近の相談窓口に寄せられる内容は東アジア/東南アジアでの販売・仕入れ先探索や輸入手続きに関するもので約70%になっているとのこと。ご講演後、会場からは東南アジア進出に関する質問・討議があり、関心の高い前述の企業環境を反映していました。

3 会員企業のPR

(1) 株式会社北海鉄工所

株式会社北海鉄工所 中岸光善氏より、ビデオを交えて企業紹介をいただきました。同社は戦後、圧力容器用タンク製造業から、その重要部材でQCDのボトルネックであった「鏡板」専業に転身して、6,000トンプレス機を自社開発しコスト競争力に優れた冷間工法を始め、各種形状に対応できるスピニング工法などを併用し製品群を拡充してきました。鏡板のJIS規格化にも参画し製品の標準化を進め、品質を担保するための材料組成から加工条件までの一貫管理などの取り組みによって、国内シェア約60%を達成しています。



「鏡板」は、各種プラントや圧力容器の端面に使用されている放物線曲線で、鏡餅の形状に似ている特殊形状部材です。その使用領域は広く、石油精製、原子力発電、火力発電、宇宙ロケット、薬品、食品、パルプ、繊維など、あらゆる産業の圧力容器設備機器に使用される必需品です。宇宙ロケットに搭載された燃料タンク用球形鏡板の経緯は、NHK『プロジェクトX～挑戦者たち～』平成15(2003)年第112回「ハレー彗星に突入せよ 76年に一度の大勝負」で紹介されました。

当日は、これらを創業50周年記念に分かり易く漫画社史としてまとめた冊子を配付していただきました。

(2) 株式会社日本スペリア社

株式会社日本スペリア社は、創業50年の歴史を持ち、はんだ・ろう付けの工業材料分野において卓越した技術を保有する企業です。同社は、従来、はんだ材料に鉛を含有していましたが、環境問題から鉛が使用制限物質となったため、新たな鉛フリー材料(錫・銅系合金)をいち早く開発して特許取得をすると共に、この材料系技術をオンリーワン技術として国内外事業を積極的に展開してきています。



今回、代表取締役社長 西村哲郎氏より、「安心して使用できる製品」を提供することを目的として、事業展開における特許の重要性や、新規材料開発や高信頼性を確保するために国内外の大学との積極的な共同研究体制など、会社の基本的な考え方を丁寧にご説明頂きました。更に、新規材料としてナノ材料への新たな取り組みについても触れられ、特性・信頼性向上への布石技術もご紹介頂きました。

最後に西村氏は、開発スピードの迅速化が最も重要になってきており、そのためには、強固なグローバル研究ネットワーク構築や「産・学・客(マーケット)」の連携強化が益々重要になってくることを力説されて、会場の参加者から強い関心が寄せられていました。

アンケート集計結果

今回は15件の回答を得ました。その中で、研究会の内容については、「参考になった」「やや参考になった」が87%、「理解しやすかった」「やや理解しやすかった」が80%、「長さも適当」が66%でした。開催の希望曜日については、「金曜日」および「土曜日」の希望が多くありました。

また、「関心のある技術分野」については、「ものづくり・加工」「機械・メカトロニクス」「素材・材料」との回答が多く、「知りたい情報」については、「実用化が期待される研究成果」との回答が多くありました。

これらの結果を、今後の研究会活動に反映するよう努めてまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

第5回研究会を開催～第20回先端科学技術シンポジウムに参加～

科学技術振興会では、1月21日(木)、22日(金)に開催された第20回先端科学技術シンポジウムにおいて振興会セッションとして、第5回研究会を開催しました。会員をはじめ同シンポジウム参加の多くの方々に本振興会のパネル展示をご覧いただきました。

先端機構における一年間の研究成果の集大成としての同シンポジウムは、会を重ねるごとに盛況となり、2日間で企業や研究機関等から延べ1,055人の方がご来場されたとのことです。



振興会のホームページ

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>

関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力してください

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University